

(1)中城村の社会的動向

①人口動向

・人口は増加し続けており、中城村人口ビジョン(平成28年3月)では、2037年(22,500人)をピークと想定している。

①<人口総数及び増加数、将来推計人口(単位:人)>中城村

	2005 (H17)	2010 (H22)	2015 (H27)	2025 (R7)	2037 (R19)
行政区域	15,798	17,680	19,454	21,887	22,500
都市計画区域	15,798	17,680	19,454	21,887	22,500
市街化区域	2,917	4,696	6,856	—	—
市街化調整区域	12,881	12,984	12,598	—	—

②<中城村の産業別人口の推移(単位:人)>中城村

	2005 (H17)	2010 (H22)	2015 (H27)
第1次産業	440	404	286
第2次産業	1,451	1,444	1,601
第3次産業	4,661	5,350	6,573
その他	10	315	341

②産業動向

・村全体において農漁業第一次産業を中心とした形から第三次産業を中心とした産業構造への移行が見られる。

③社会資本整備

・国道329号線 西原中城バイパスの都市計画決定(令和2年度)、宜野湾横断道路(計画)、中城IC(計画)

④拠点施設整備

・中城村役場新庁舎落成

③ 国道329号 西原バイパス概要資料



④中城村役場新庁舎落成

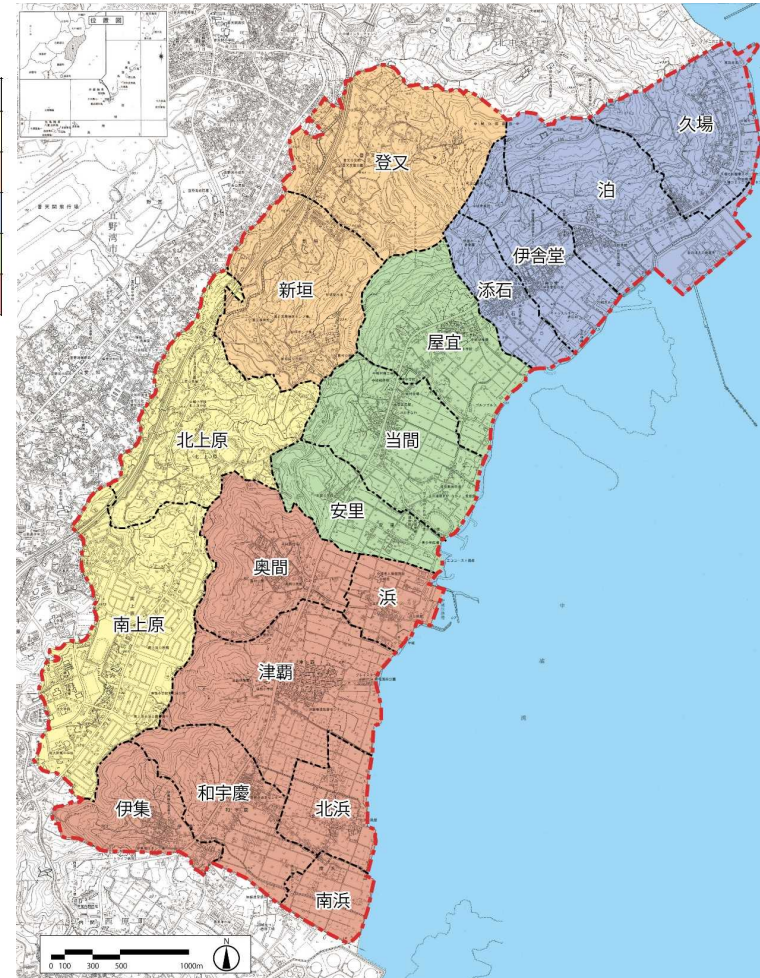


(2)地域別構想

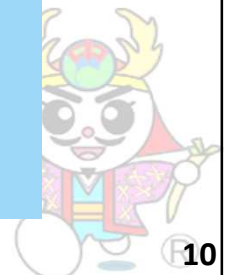
・中城村を5地区に分けて地区区分を設定した。設定は、行政区(字)を基本とする。

表：地区区分

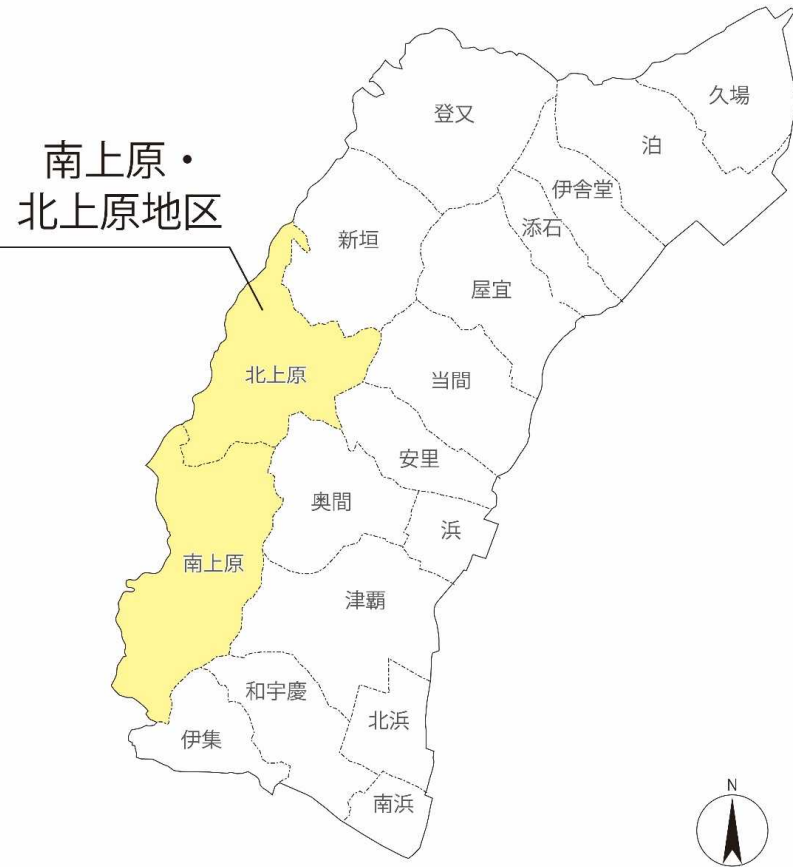
地区	含まれる字
南上原・北上原地区	南上原、北上原
登又・新垣地区	登又、新垣
下地区(北部)	久場、泊、伊舎堂、添石
下地区(中部)	屋宜、当間、安里
下地区(南部)	浜、奥間、津覇、和宇慶、伊集、北浜、南浜



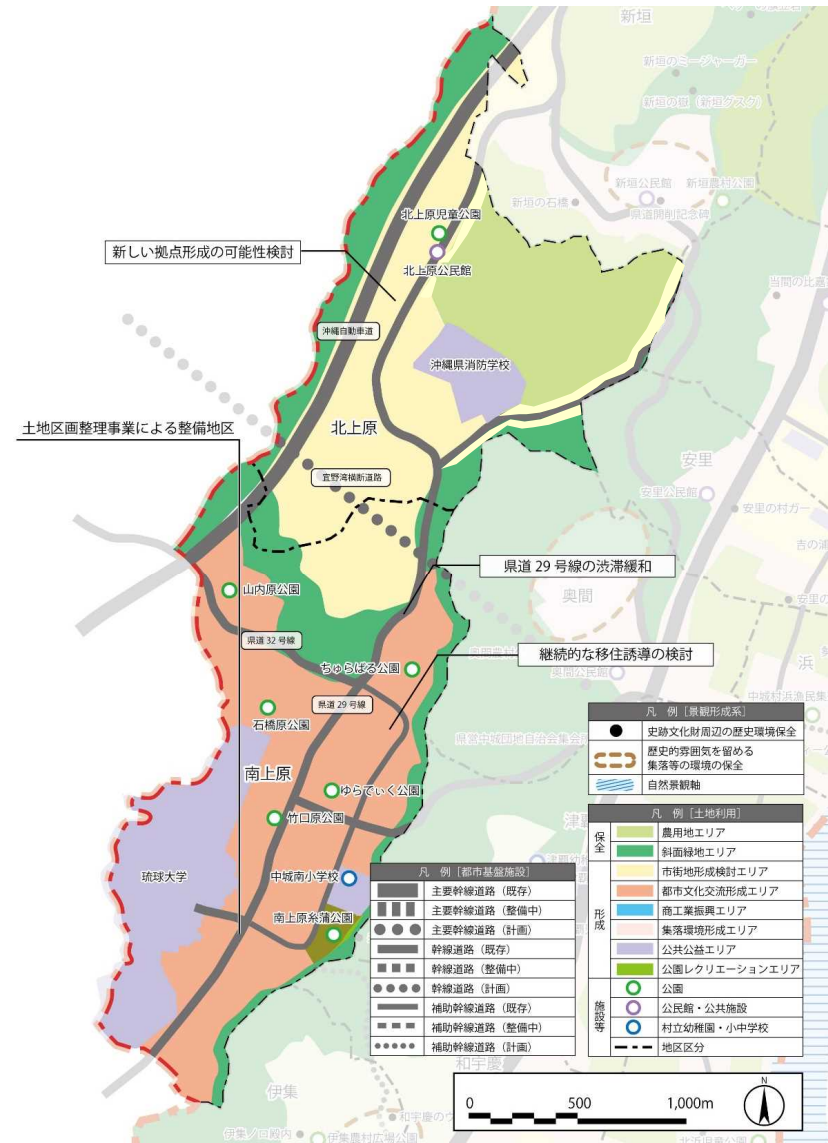
地区区分図



地域別構想図(南上原・北上原地区)



南上原・北上原地区位置図

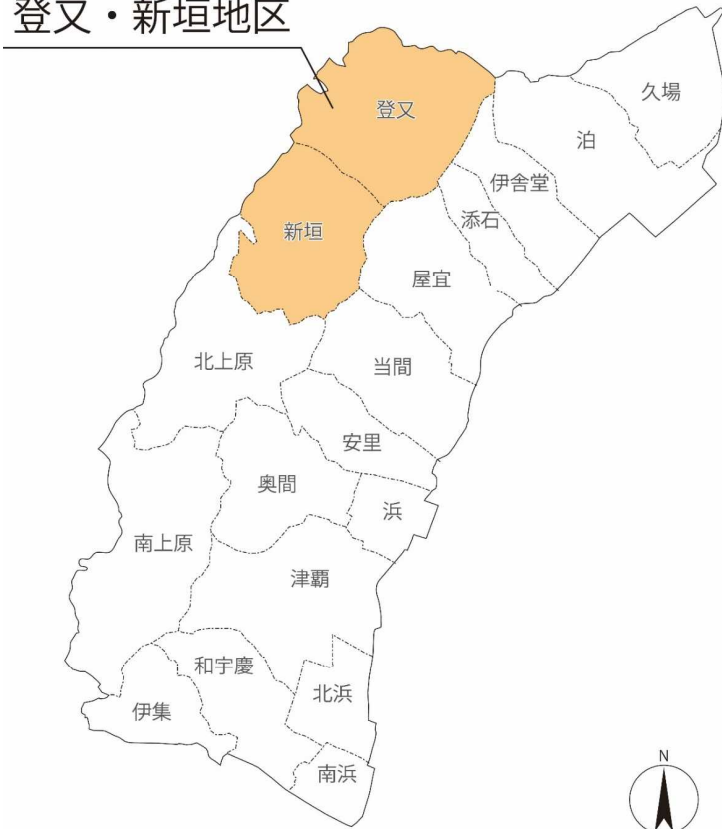


地区区分図

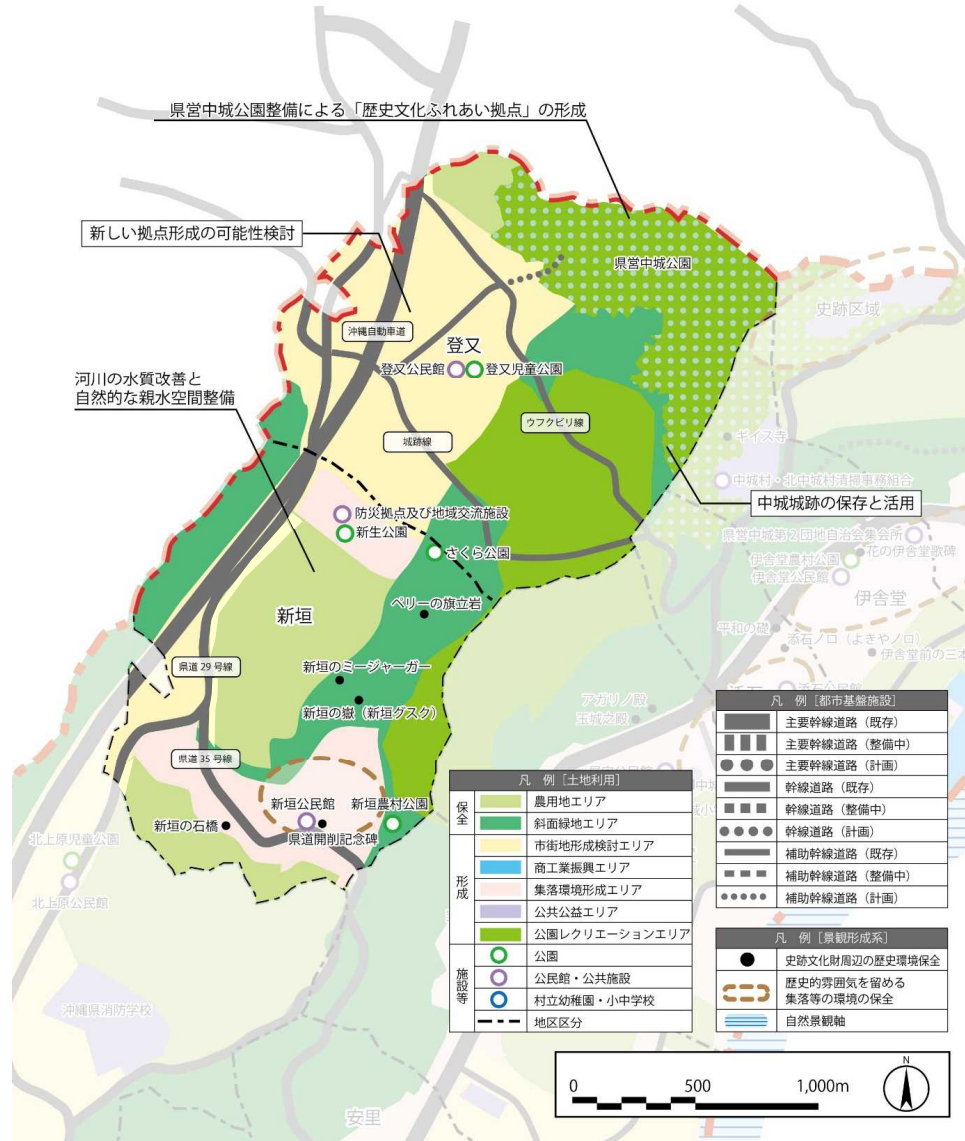


地域別構想図(登又・新垣地区)

登又・新垣地区

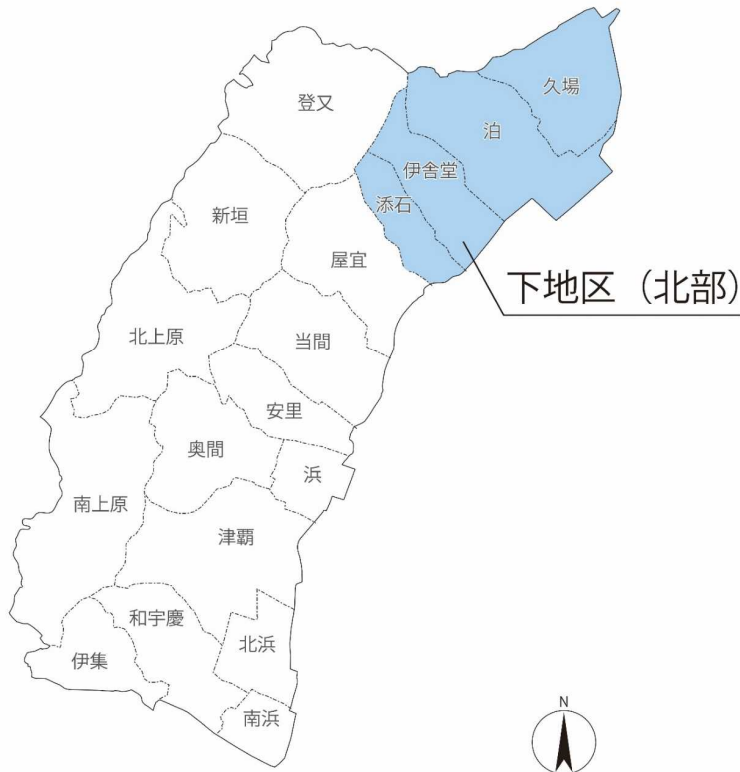


登又・新垣地区位置図

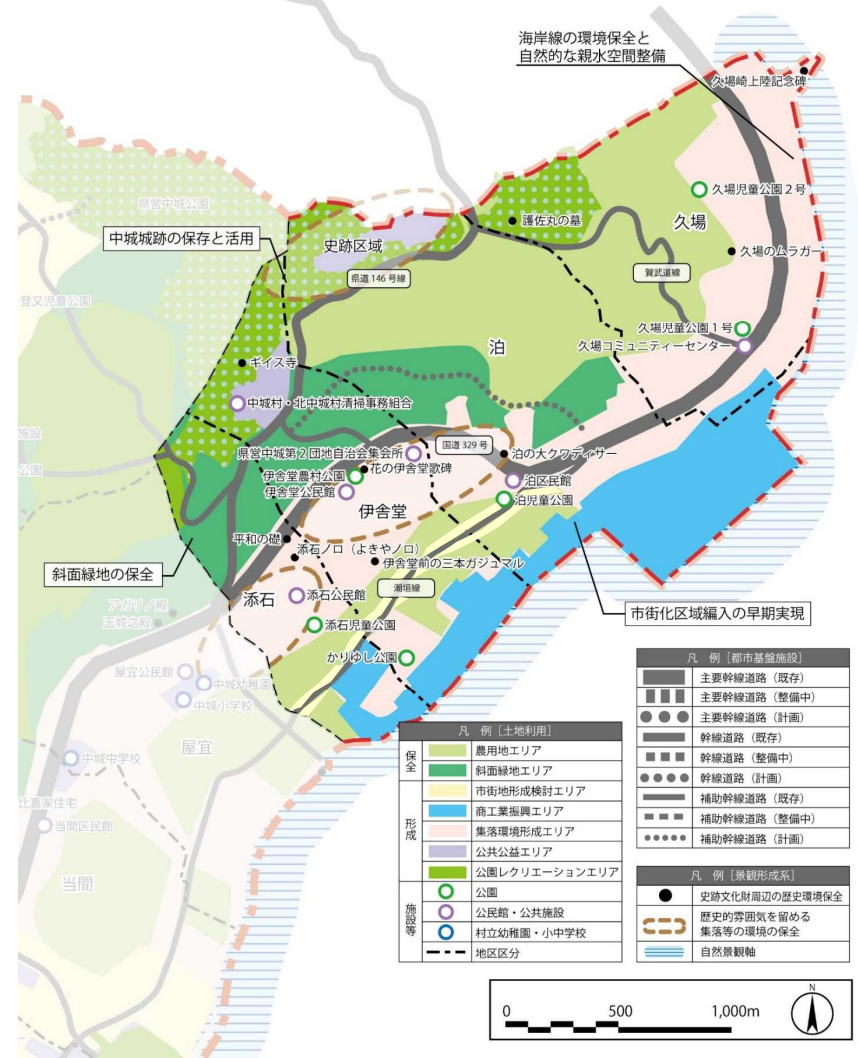


地区区分図

地域別構想図(下地区(北部)地区)



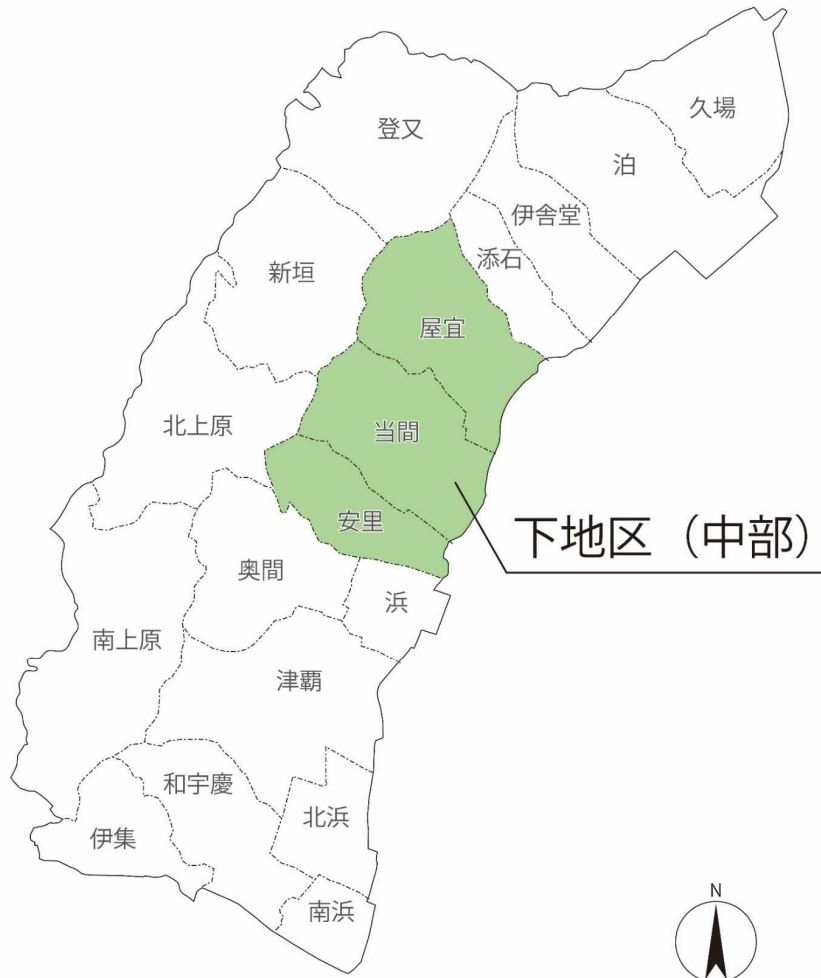
下地区(北部)位置図



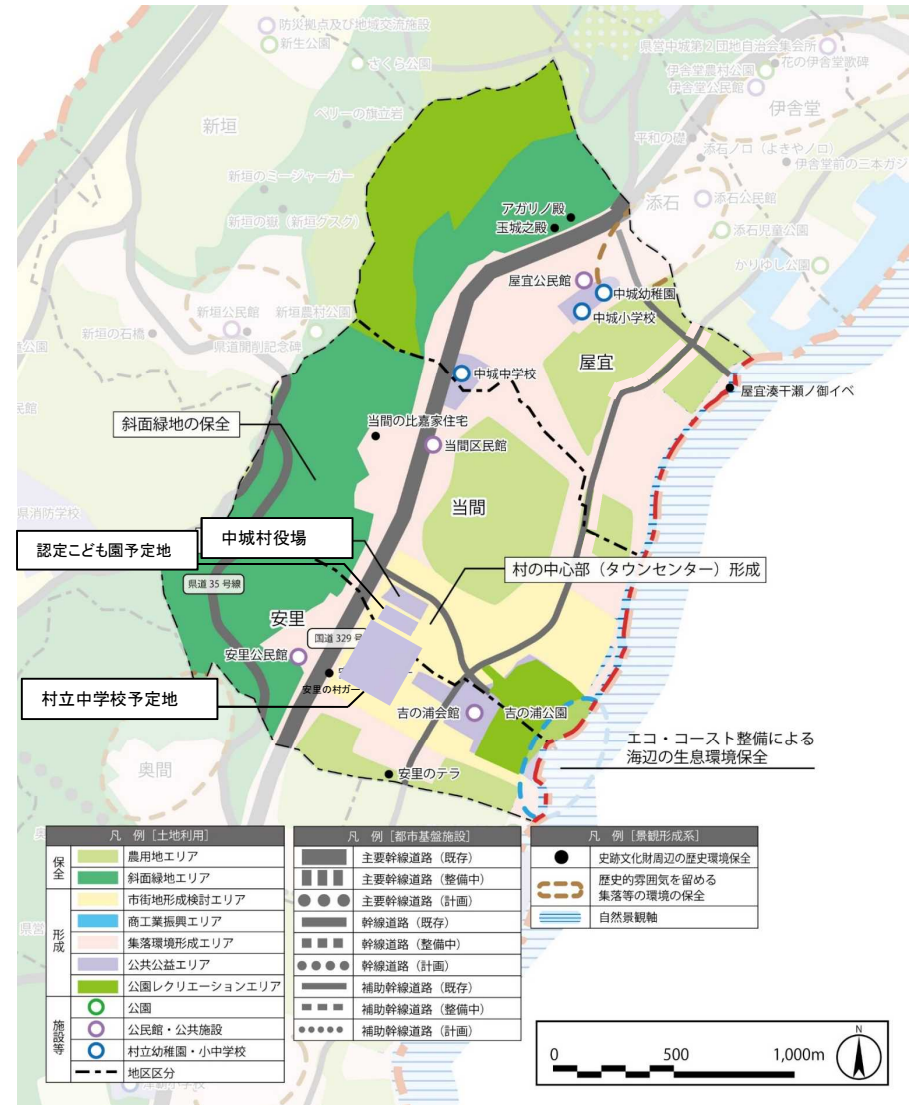
地区区分図



地域別構想図(下地区(中部)地区)



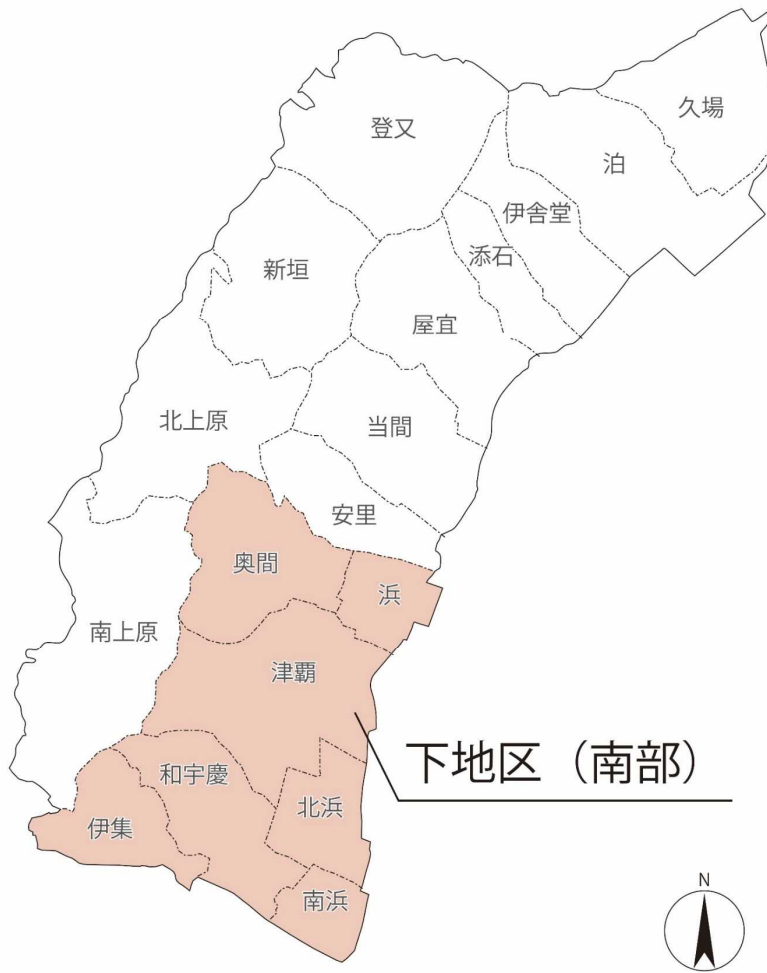
下地区(中部)位置図



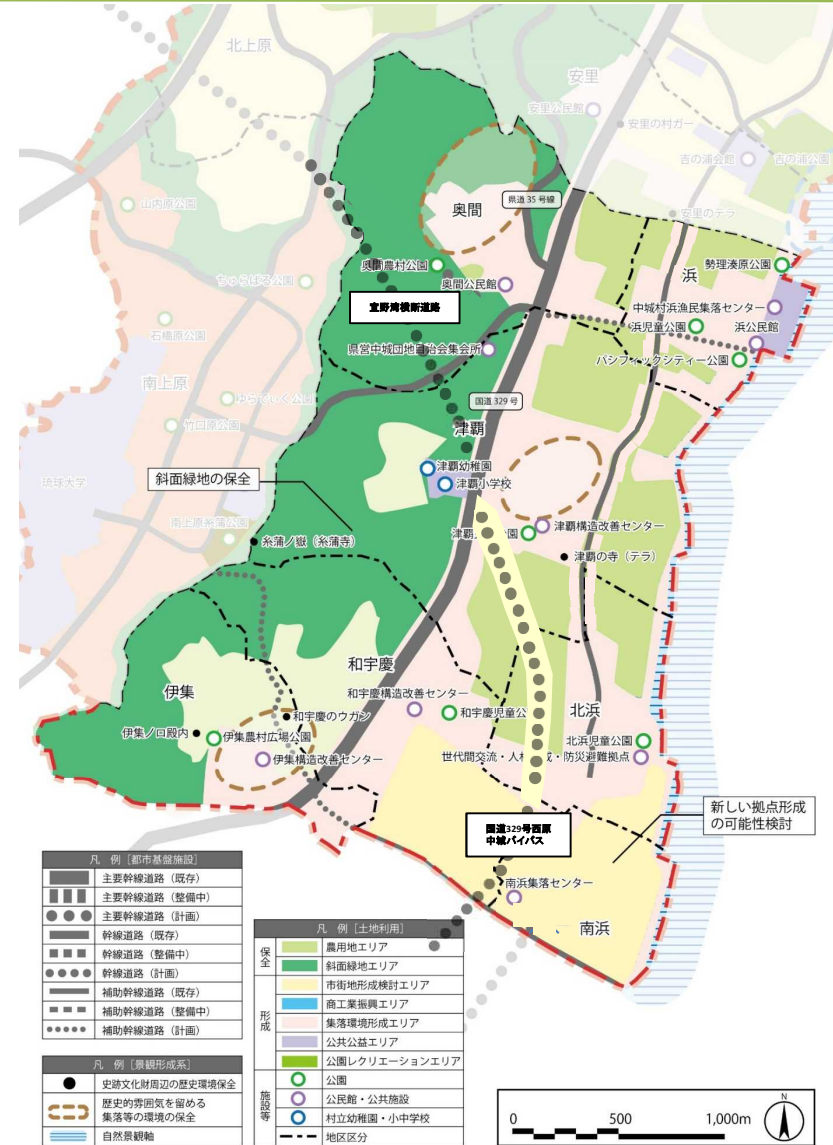
地区区分図

凡例 [土地利用]		凡例 [都市基盤施設]		凡例 [景観形成系]	
緑	農用地エリア	●	主要幹線道路 (既存)	●	史跡文化財周辺の歴史環境保全
黄緑	斜面緑地エリア	■	主要幹線道路 (整備中)	○	歴史的雰囲気を守る集落等の環境の保全
黄	市街地形成検討エリア	●	主要幹線道路 (計画)	○	自然景観軸
青	商工業振興エリア	■	幹線道路 (既存)	○	
赤	集落環境形成エリア	■	幹線道路 (整備中)	○	
紫	公共公益エリア	●	幹線道路 (計画)	○	
緑	公園レクリエーションエリア	■	補助幹線道路 (既存)	○	
○	公園	■	補助幹線道路 (整備中)	○	
○	公民館・公共施設	●	補助幹線道路 (計画)	○	
○	村立幼稚園・小中学校	○		○	
- - -	地区区分				

地域別構想図(下地区(南部)地区)



下地区(南部)位置図



凡例 [都市基盤施設]	
[Solid line]	主要幹線道路 (既存)
[Dashed line]	主要幹線道路 (整備中)
[Dotted line]	主要幹線道路 (計画)
[Thick solid line]	幹線道路 (既存)
[Thick dashed line]	幹線道路 (整備中)
[Thick dotted line]	幹線道路 (計画)
[Thin solid line]	補助幹線道路 (既存)
[Thin dashed line]	補助幹線道路 (整備中)
[Thin dotted line]	補助幹線道路 (計画)

凡例 [景観形成系]	
[Black dot]	史跡文化財周辺の歴史環境保全
[Dashed circle]	歴史的雰囲気を守る集落等の環境の保全
[Blue wavy line]	自然景観軸

凡例 [土地利用]	
[Green]	農用地エリア
[Light Green]	斜面緑地エリア
[Yellow]	市街地形成検討エリア
[Light Blue]	商工業振興エリア
[Light Purple]	集落環境形成エリア
[Light Green]	公共公益エリア
[Light Green]	公園レクリエーションエリア
[Green circle]	公園
[Purple circle]	公民館・公共施設
[Blue circle]	村立幼稚園・小中学校
[Dashed line]	地区区分

地区区分図



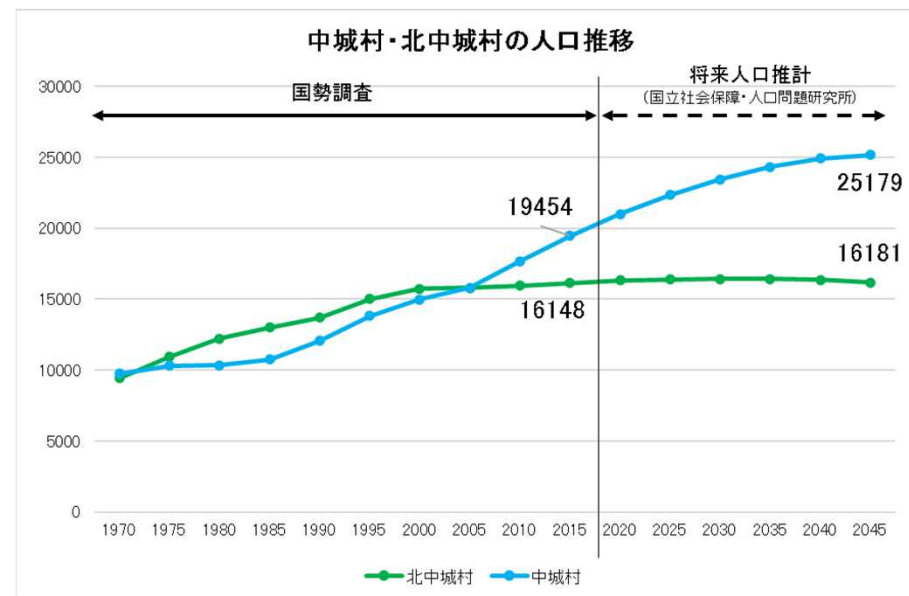
(3)中城村・北中城村共同まちづくり計画について

■ 共同まちづくり計画に関する方針について(那覇広域都市計画区域における区域区分検討協議会(第3回委員会)資料1より)

中城村及び北中城村の中部広域への移行の要望については、両村が元々一つの村であったことや、世界遺産である中城城跡の共有等により、共にまちづくりしなくてはならないとしていることから、両村の共同でのまちづくりの展望を明確に示す必要がある。今後、その展望に基づく村から提案された将来の土地利用の考え方を踏まえ、無秩序な市街化防止や、計画的な市街化の誘導等について、区域区分を廃止した場合の村の対応方針やその実現手法を確認しながら検討を行う必要がある。

中部都市計画移行要請へ
中城・北中城人口増で宅地確保

【中城・北中城】土肥開拓。計画区域の権限発の規制緩和を旨とし、中城村の浜田京介村長と北中城村の新垣邦男村長が来年度から都市計画の区域見直しに向けて共同で取り組むことが4日までに分かった。両村とも人口増が続いているが、現行の都市計画の位置付けでは開発に強い規制があり、宅地の確保には限界があるため、見直しまでには一定の年度がかかるとみられ、それまでに必要な体制など、準備を整えている。那覇広域の区域は、優先的に市街化を進める市街



中城村・北中城村の中部広域都市計画区域への意向要請について
 (琉球新報 平成31年3月5日)

資料: 国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所将来人口推計



(4)共同のまちづくりに向けた課題について

課題1 中城城跡を核とした文化・歴史・自然資源の保全・活用

- 両村の境界部に世界遺産である中城城跡があり、さらにその周りには文化財が多く点在していることから、それらの資源を保全しつつ、学習・レクリエーション空間の形成を進め交流を促進し、両村の振興につながる利活用が求められる。
- 中城城跡周辺では、起伏の変化に富んだ地形で、その斜面緑地を骨格として緑豊かな地域となっており、良好な自然環境や美しい風景の将来への継承が求められる。

課題2 市街化調整区域内の住環境の確保

- 両村ともに全体として人口増加傾向にあるが、人口が減少している地域もあることから、減少傾向にある地域の人口減少・少子高齢化への対応が求められる。
- 特に、両村に大きく広がる市街化調整区域においては、市街化区域と比較して土地利用の規制が強いことから、集落保全に向けた生活利便施設の立地要件の緩和などの柔軟な土地利用が必要となる。

課題3 農用地の利活用

- 国道329号や県道那覇北中城線周辺において、農振農用地の指定が多いものの、耕作放棄地の割合も高いため、遊休農地の管理・活用方法についても検討する必要がある。

課題4 域内・広域公共交通の拡充・連携

- 両村において、村内のコミュニティバス・周遊バスや那覇までの路線バスが拡充されているものの、2村の拠点を結ぶような路線バスの運行は少ないため、両村の拠点を結ぶ域内公共交通の整備が必要となる。
- また、広域及び域内の公共交通の接続強化を図り、少子高齢化や観光需要などに対応した公共交通ネットワークの拡充が求められる。

課題5 東海岸の強固な経済基盤形成に向けた産業振興

- 沖縄本島西海岸地域が経済発展・開発が進んでいる一方で、沖縄本島東海岸地域の経済活性化が今後の課題であり、県土の均衡ある発展に向けて、両村を含む東海岸にもう一つの南北に伸びる経済の背骨を形成し、強固な経済基盤を構築することが重要である。

課題6 災害への対応・安全安心のまちづくり

- 国道329号沿岸部については低地が広がっていることから、高潮や津波などの災害に対応したインフラ整備(津波避難ビルの整備 等)や地域の防災対応力の向上が求められる。
- 東西の標高差が激しく急傾斜地が広がっており、土砂災害のリスクが高い箇所があることから、危険の周知、警戒避難体制の整備、住宅等の新規立地の抑制などの土砂災害対策が必要となる。

(4)中城村・北中城村の将来イメージ図について

中城城跡を核とした文化・歴史・自然資源の保全・活用

中城城跡を核として地域に点在する歴史上価値の高い資源を保全しつつ、それらの資源をふれあえる場として活用を行い、後世への継承を行う学習の場として、一体的な歴史的風致の維持及び向上を図る。
(具体施策)
・歴史まちづくり計画を踏まえた歴史的風致の維持・向上



中城城跡



伝統集落

市街化調整区域内の住環境の確保

既存集落の地域性を考慮した良好な住環境の形成・維持・改善を図る。
(具体施策)
・市街化調整区域の地区計画の活用による生活利便施設の立地緩和(想定エリア)
・都市計画法第34条第11号・第12号緩和区域内の集落・タウンセンター地区 等

農用地の利活用

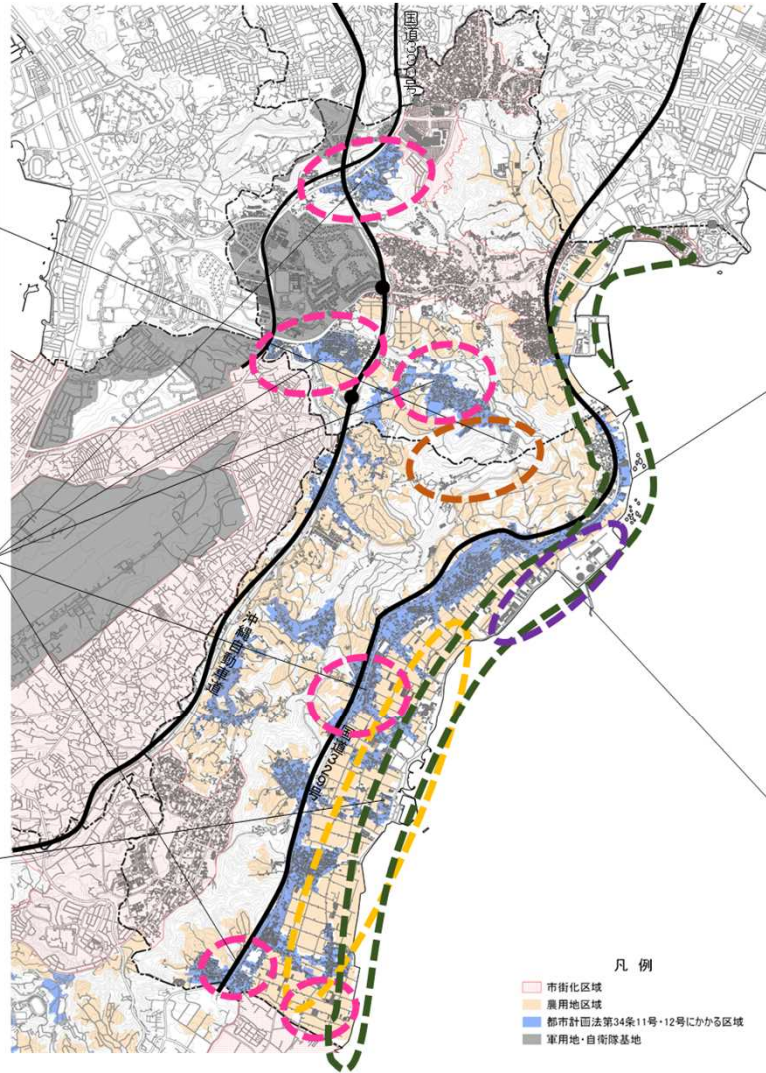
多様な産業との連携や新たな農業手法の転換を図り、農用地の高度利用を図る。
(具体施策)
・観光業と連携したグリーンツーリズムの推進
・植物工場や都市近郊農業への転換



グリーンツーリズムの推進



植物工場の整備



域内・広域公共交通の拡充・連携

両村の境界付近に位置する中城城跡を結節点として両村のコミュニティバスの運行を行い、両村での公共施設や病院、大型店舗の移動が容易にできるルートを構築する。



護佐丸バス

災害への対応・安全安心のまちづくり

ハード対策やソフト対策を組み合わせ、IT技術を活用し、両村や関係課で連携した災害時のリスクに強い強靱なまちづくりを推進する。
(具体施策)
・中城湾沿岸の護岸修繕
・防災拠点の整備・連携
・避難路の確保 等



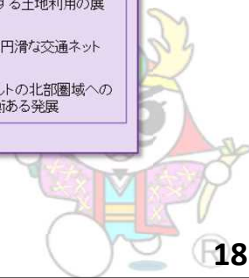
村内の高潮浸水予想図

東海岸の強固な経済基盤形成に向けた産業振興

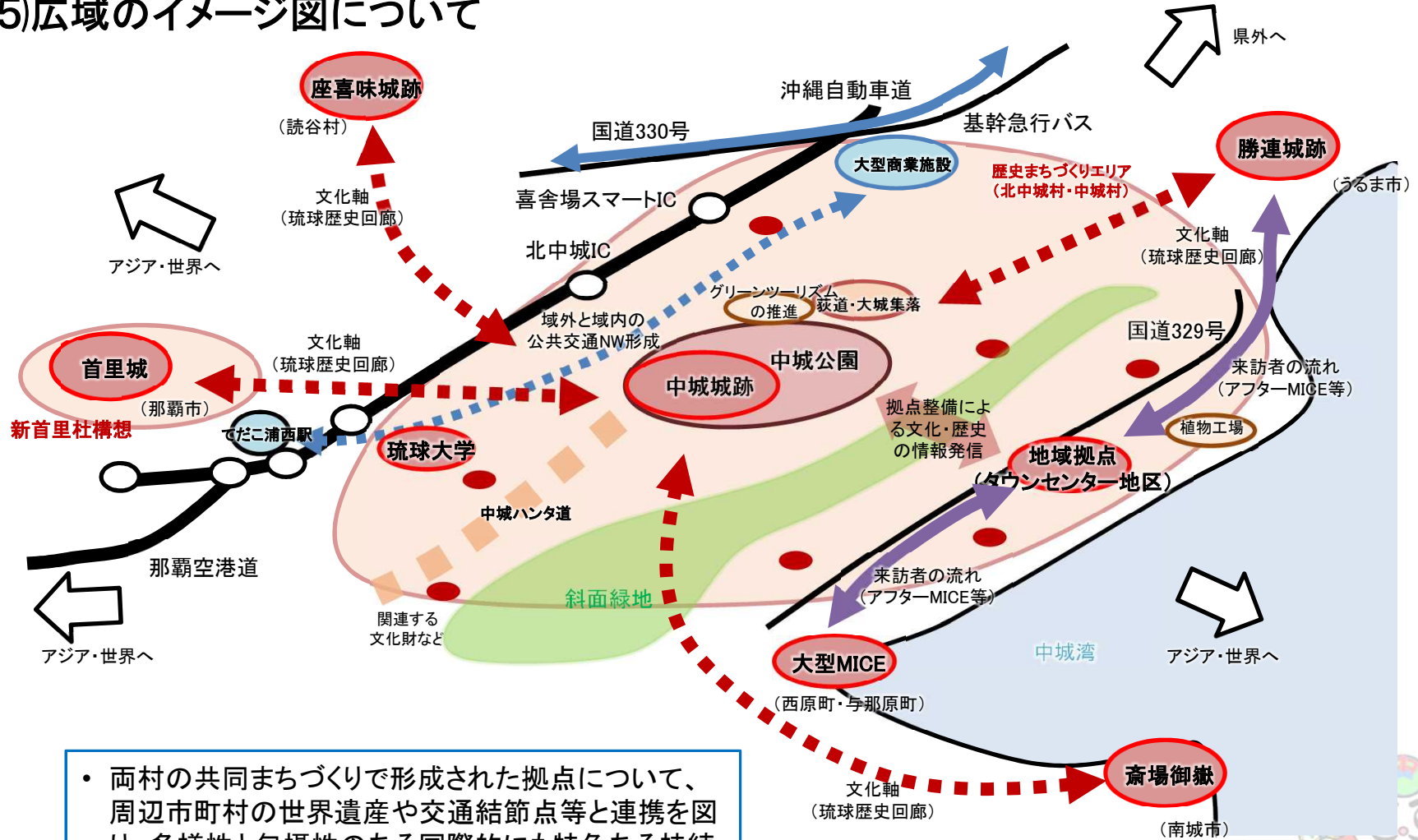
既存主要産業(観光業、農業等)の強化及び新規産業の創出を行い、自然環境や生活環境の調和に配慮し、かつ多様な産業や広域との連携が可能な産業用地の確保を推進する。
(具体施策)
・柔軟な土地利用の推進による産業用地の確保 等

東海岸サンライズベルトの発展戦略6つの基本的方向性(案)

1. 東海岸地域に南北に延びる経済基盤の形成
2. 大型MICE施設等を核とした東海岸地域の活性化
3. スポーツツーリズムの施策の展開
4. 歴史資源・自然資源と産業振興・観光振興が調和する土地利用の展開
5. 東海岸地域の円滑な交通ネットワークの形成
6. サンライズベルトの北部圏域への展開と県土の均衡ある発展



(5) 広域のイメージ図について



両村の共同まちづくりで形成された拠点について、周辺市町村の世界遺産や交通結節点等と連携を図り、多様性と包摂性のある国際的にも特色ある持続可能な都市圏の形成に寄与したまちづくりを目指す。

